

2024 (令和6)年 政策情報紙 とりで

取手市で暮らす全ての方が「ここに住んでいてよかった」と思えるように、市はさまざまな事業を推進しています。

今回は、中村市長が2023年(令和5年)の就任後に策定した第六次取手市総合計画「とりで未来創造プラン2024」の概要や、この計画に基づく各政策などをご紹介します。

目次

とりで未来創造プラン2024P2
快適で住みやすい都市の実現P3
魅力の創造と発信P4
未来をつくる世代を育むまちづくりP5
健康でいきいきとした社会の実現P5
大切な日常が守られる環境整備P6
将来にわたり発展する地域社会の構築P7
子どもまんなか社会における市の取り組みP8

任み統するほど
好きになる街をつくる
取手市長 中村 行

「政策情報紙とりで」は、年に1回、市民の皆さんと市政の事業の進展状況や現状認識を共有するため、お届けしていきます。

発行 / 取手市 編集 / 魅力とりで発信課

〒 302-8585 茨城県取手市寺田 5139

TEL 0297-74-2141 内線 1195 FAX 73-5995

ホームページ

<https://www.city.toride.ibaraki.jp/>

E-mail miryoku@city.toride.ibaraki.jp



本紙は、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

※ 8月30日時点の情報を基に編集しています。

第六次取手市総合計画 とりで未来創造プラン2024

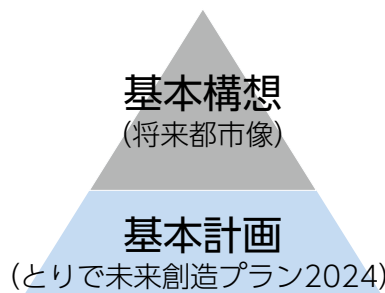
図 政策推進課 ☎ 内線 1212

総合計画って何？

総合計画は、市の行政運営の指針となる最上位の計画です。「将来こんな取手市でありたい」という将来都市像を定める「基本構想」と、それを実現させるための具体的な取り組みを定めた「基本計画」で構成されています。基本構想はまちづくりの長期的なビジョンであるため、期限を設けていません(社会経済情勢や市民意識が大きく変化した際に見直すこととしています)。

一方で、基本計画は時代の潮流や市民ニーズを的確に反映するため、市長任期に合わせて計画期間を4年間としています。

第六次 取手市総合計画



基本構想 長期的なまちづくりの理念や目標を定めています。

将来都市像

ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち とりで

基本計画(とりで未来創造プラン2024)

6つの「政策」、15の「重点施策」、73の「重点事業」で構成された政策体系に基づいて、2024年度からの4年間に重点的に取り組む事項を定めています。

政策体系



6つの政策

とりで未来創造プラン2024の政策体系の最も大きな枠組みとなる「政策(目指すまちの未来)」は、基本構想のまちづくりの基本方針や市長マニフェストに合わせ、6つ設定しました。

- 政策1 快適で住みやすい都市の実現
- 政策2 魅力の創造と発信
- 政策3 未来をつくる世代を育むまちづくり
- 政策4 健康でいきいきとした社会の実現
- 政策5 大切な日常が守られる環境整備
- 政策6 将来にわたり発展する地域社会の構築

各政策の事業などを
3～7ページで解説します。



とりで未来創造
プラン2024

政策1 快適で住みやすい都市の実現

重点施策

- ①訪れたい・住みたい都市空間の創出
- ②快適な生活を支える都市機能の充実

■ 取手駅西口A街区地区の再開発と複合公共施設の整備

A街区地区では、地権者の皆さん(再開発準備組合)による第一種市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められています。令和11年度の完成を目標に、約200戸の高層住宅と公共施設や商業施設などによって構成される建築物を整備する予定です。

図書館機能を中心とした魅力ある都市空間を有する複合的な公共施設を、交通アクセスに優れ、都市機能が集積した駅前に整備することにより、駅周辺地区の活性化とにぎわいの創出を図るとともに、利便性の向上につなげます。

取手駅前の再開発と、魅力的な複合公共施設の整備によって、市全体の活力向上と将来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきます。



複合公共施設イメージ
(6年2月10日現在)

※現時点のイメージであり、今後変更となる場合があります。

くわばら ■ 桑原地区の整備推進

国道6号と上新町環状線(愛称:「とりかん」)が交わる桑原地区では、商業・業務施設を核とした活力創造拠点を整備するため、組合施行の土地区画整理事業による新しいまちづくりの準備を進めています。

まちづくりの構想としては、「新たな取手の求心力を担う活力創造拠点づくり」をコンセプトに、訪れた皆さんが非日常を体感できるような時間消費型の商業展開を地区全体で進めていくことを想定しています。

地権者、イオンモール株式会社・イオンタウン株式会社、取手市の三者協働で事業化の検討を進めていて、開発規模は約67ヘクタールと大規模です。新たな雇用の創出と定住化促進、周辺地域への経済効果が期待されます。



平成29年12月公募提案時
事業協力者提案概要 イメージ図

※開発のイメージであり、今後変更となる場合があります。

政策2 魅力の創造と発信

重点施策

- ③魅力の創出と移住定住の推進
- ④市内産業活性化による地域のにぎわいの創出

■ 取手駅西口に新たなアートスポットを設置

取手駅西口ペデストリアンデッキ上に、アートが施された電波時計塔「共生の樹」^{きょうせい}を新たに設置しました。この時計塔は、キャノン株式会社、東京藝術大学、市の三者が、「アートのまち とりで」の象徴とするために制作。「自然豊かなまち」をテーマに市民や市立小・中学校からイメージ図案を募集し、多様性を受け入れる柔らかな発想や気持ちにつながることを願い、時計の周囲にさまざまなモチーフが寄せ集まって共存しているデザインとなっています。

さらに、時計塔が設置された植え込みの外周を囲むベンチ上には、令和5年度取手市長賞を受賞した2体のブロンズ像「よりどころ」を設置しました。

この場所を新たなアートスポットとして、駅前を訪れる多くの方に愛されることを期待しています。



電波時計塔「共生の樹（キャノン株式会社の寄付で東京藝術大学が制作）」と、ブロンズ像「よりどころ」



■ とりで利根川大花火を1万発に増発！

昭和5年に大利根橋の開通を記念して始まった「とりで利根川大花火」は、約12万人の集客が見込める取手市最大のイベントです。令和6年度は、花火の打ち上げ数を約1万発に増発し、取手市の魅力を全国に発信しました。

また、令和5年から花火の打ち上げに併せてドローンショーを実施。取手市ならではの花火大会になっています。

■ 「ほどよく絶妙とりでファンクラブ」を創設

令和6年7月、既存の組織で市のPR活動を行う市民団体「ほどよく絶妙とりで会議」と、登録制の「取手市PRサポーター」を統合し両団体の活動を強化するため、「ほどよく絶妙とりでファンクラブ」を創設しました。市民と行政の協働で地域資源を広く発信し、市の認知度向上と郷土愛の醸成^{じょうせい}、会員同士の交流を深めます。

ほどよく絶妙とりでファンクラブ会員を随時募集中！

魅力発信活動をはじめ、イベントへの参加、会員間の交流を図るファンミーティングなどのさまざまな活動があります。



ほどよく絶妙とりで
ファンクラブ会員募集

政策3 未来をつくる世代を育むまちづくり

重点施策

- ⑤子育てしやすいまちづくり
- ⑥未来を担う人材を育てる学校教育

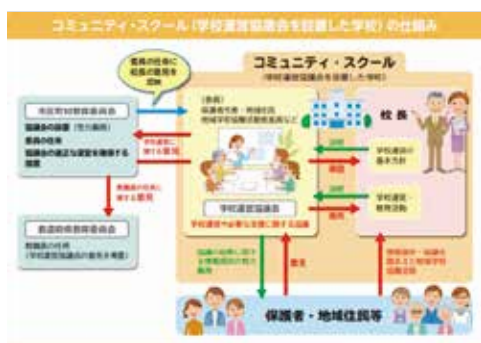
■一部の地域子育て支援センターは土曜日も利用可能！

地域子育て支援センターは、0歳から就学前までのお子さんのいるご家庭やこれから親になる方を対象に、子育ての情報交換や子育てへの悩み相談、遊びを通して子ども・親同士の友達づくりの支援などを行っています。

令和6年度から、戸頭・藤代^{とがしら}地域子育て支援センターの2施設が土曜日も利用できるようになりました。



地域子育て支援センター



■コミュニティ・スクールの推進

市内小・中学校でのコミュニティ・スクールを推進しています。この仕組みを通じて、学校の運営に地域住民などの協力を促進し、地域の特色ある学校づくりを進めます。

コミュニティ・スクールとは

「学校運営協議会」(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5)が設置された学校のことです。地域と学校が一体となって、子どもたちの成長を支えます。

政策4 健康でいきいきとした社会の実現

重点施策

- ⑦ぬくもりある医療・福祉の提供
- ⑧健康づくりの推進
- ⑨生きがいやつながりを持てる社会の実現
- ⑩市民と協働でつくる地域社会

■健康づくりの推進

一人一人が生きがいを持ち、心身ともに豊かさにあふれている「健康な地域社会」を目指し、介護予防のためにシルバーリハビリ体操やチューブ体操の普及活動を行うなど、地域の皆さんが活躍しています。

■市民と協働でつくる地域社会

地域の課題は、地域住民自らが主体となって各地域の課題に取り組むことが重要です。防犯パトロールなどのボランティア活動は、地域への関わり方として広く認識されるようになりました。引き続き、市民と行政との協働により、地域の課題を地域で解決することを念頭に置き、各種施策に取り組んでいきます。



通学路の見守り活動

政策5 大切な日常が守られる環境整備

重点施策

- ⑪安全安心な生活を送れるまちづくり
- ⑫脱炭素と循環型社会

消防団が活躍！

令和5年に自治体消防制度75周年を記念し、各地区大会の優勝チームを集めた茨城県中央大会が開催され、市から出場した第26分団がポンプ車の部で見事優勝を果たしました。消防団は、各地域で消防防災活動や防災啓発活動などを行っています。



ポンプ車の部で優勝した第26分団



環境大臣賞の受賞を記念し、児童が校内に作った脱炭素チャレンジ広場に苗木を植樹

サステナブル学習プロジェクト

市は、未来を担う小・中学生自らが環境や社会の課題を考え、行動を起こす力を身につけるための環境教育となる「サステナブル学習プロジェクト」を推進しています。このプロジェクトの活動を通じて、市立取手西小学校4年生が「脱炭素チャレンジカップ2024（ジュニア・キッズ部門）」の最優秀賞に当たる環境大臣賞を受賞しました。

サステナブル学習プロジェクトとは

地球温暖化による気候変動への対応を環境、社会、経済の問題に地域課題をかけ合わせ、解決を目指す探究型SDGs学習^{エスディージーズ}。令和4年度から実施し、7年度までに市内全小・中学校へ展開する事業です。

市コミュニティバスにEVバスを導入

公共交通の低炭素化を推進するため、市コミュニティバスにEV（電気自動車）バスを導入しました。導入ルートは取手ウェルネスプラザから関東鉄道戸頭駅^{とがしら}を結ぶ「西部ルート」です。今後の車両更新も、走行時の二酸化炭素排出量がゼロで静粛性に優れたEVバス車両を積極的に導入し、環境にやさしいまちづくりを進めていきます。

車両の仕様

- 車種名：BYD社 J6
- 乗車定員：35人
- 航続距離：210キロメートル(メーカーカタログ値)
- 床形状：ノンステップ



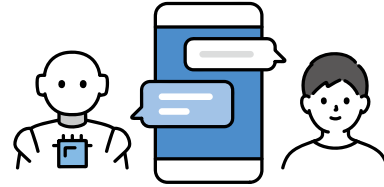
政策6 将来にわたり発展する地域社会の構築

重点施策

- ⑬ デジタル化の推進
- ⑭ 持続可能な自治体経営
- ⑮ 多様性を認め合う平和な社会

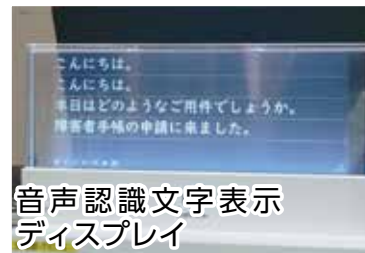
■ デジタル化の推進

市ではICTや生成AIをはじめとする先端技術の効果的な活用により、業務の効率化と誰も取り残されないデジタル化の実現を目指し、市民の皆さんの福祉向上につながる取り組みを続けていきます。



市業務にAI技術を活用

令和5年6月、障害福祉課の窓口にて音声認識文字表示ディスプレイを設置し、聴覚障害者や音声だけでの理解が難しい方とのコミュニケーションツールとして活用を図っています。



スマホの操作体験教室・相談会を開催

情報化社会に欠かせないスマートフォンの利用促進を目指し、スマートフォン未所有者～中級者向けの「シニアのスマホ体験教室」やスマートフォンの活用方法の悩みに寄り添う「スマホよろず相談会」を行いました。



シニアのスマホ体験教室

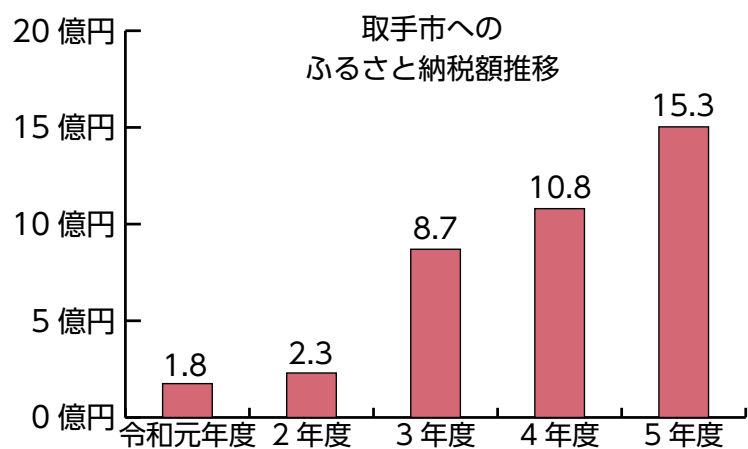


スマホよろず相談会

■ ふるさと納税の推進

ふるさと納税(ふるさと取手応援寄付金)は、市のまちづくりを応援する皆さんからのご寄付を、さまざまな事業に活用するための原資として確保・活用することを目的としています。

市外からの寄付者に市の特産品などを返礼品として送ることで、市内産業を活性化し全国に向けて市の魅力を発信。民間ポータルサイトを活用し、令和5年度は約15.3億円もの寄付額となりました。今後も、ご寄付を通じて多くの方に取手市を応援いただけるよう、積極的に取り組んでいきます。



とりでこども未来会議 2024



こどもまんなか社会における市の取り組み 問 こども政策室 ☎内線 1351

こども計画の策定を進めています

市は「全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができるこどもまんなか社会」の実現に向け、現在、こども施策の基本的な方針や重要事項などを一元的に定めた国の「こども大綱」に基づき、「取

手市こども計画(仮称)」の策定を進めています。こどもや若者、子育て世代当事者の視点を尊重し、その意見が反映された計画の策定となるようさまざまな手法で積極的に対話を行う取り組みを進めていくことで、当事者目線の計画策定につなげていきます。



こども家庭庁
こども大綱の推進

高校生と「こどもまんなか」社会を考えました！



令和6年7月、こどもや若者の意見を聴き、対話をする取り組みの一つとして、次世代を担う取手市内にある全7校の高等学校の学生の皆さんと一緒に「こどもまんなか社会」を考えるワークショップ「とりでこども未来会議2024」を開催しました。ワークショップ

では、「自分の居場所」や「魅力的な駅前」をテーマに、取手市役所の若手職員も加わりながら自由な意見交換が行われ、参加者が自分ごととしてまちづくりを考えました。今後も若者が主体的に社会の形成に参画できる環境づくりを進めていきます。



取手市長 中村修

市は、今後もこどもたちや、これから子育てを考えていく若者が、将来にわたって幸せな生活が送れる社会を実現するため、結婚から妊娠、出産、子育てといったあらゆるステージに応じた切れ目のない支援を展開していきます。

こどもをまんなかに捉え、取手市の未来をつくるこどもたちの立場や気持ちに寄り添い、こどもたちの声をしっかりと聴ける社会を実現するため、多くの方が「こどもまんなか」社会の実現に向けた行動に取り組んでいただけたら幸いです。